

木くぼり



No.
150

発行
'16-10月号

今月の木 柘

株式会社 ナガイ内
住まい教室 金谷教室

柘より緻密で、石に近い色つやの木。その可能性をもっとひらこう。

柘(つげ)は「木」偏に「石」と書くので想像はつくでしょうが、柘などよりさらに堅くてさらに緻密な木です。導管は、0.020~0.035 mmできわめて小さく、肉眼では見えないくらいです。導管の太さが10倍以上もある櫟・樅・栗に比べると、木肌はツルンとしていて、材の色も黄色っぽいのが特徴です。漢字で『黄楊』と書く場合も多いのですが、やはり石のように堅い木というイメージを大切に、柘と書く方が感じが伝わってくる気がします。

柘といえば「印鑑」や「つけぐし」がまず浮かんでくる人が多いでしょう。中でも有名なのは「薩摩のつけぐし」で、本物はサツマツゲと呼ばれる材でできています。娘が生まれると嫁入りのときの櫛の材料にという思いから、必ずこの木を植えたといわれます。柘は成長が遅い木で、直径が10cm以上になるのに50年はかかるといわれ、サツマツゲも日々少なくなっています。現在、「本つけ」とされているものは、タイ産の「シャムツゲ」を原材料としたものであり、「サツマツゲ」と明記されているもののみが国産材を使っています。タイ産と国産の差は見た目は変わりなく、むしろタイ産の方が黄色が強くきれいにさえ感じます。しかし国産は使えば使うほど

「色つやが増し、深い味わいが出る」と言われます。ところが最近、異変が起きました。タイが自然保護を主な理由とし、「シャムツゲ」の輸出を禁止し始めたのです。今のところまだ在庫が残っていますが、致命傷になるのは確かです。柘をはじめ木を植えて育てるという習慣を新しく再構築したいものです。



柘の櫛

新築現場情報

9月1日 島田市道悦にて、W様邸が上棟しました。棟梁は、市川建築様にお世話になります。12月中旬の完成に向けてスタッフ一同、一丸となって完成まで心をこめてお手伝いさせていただきます。



W様、9月4日より塗装作業に取りかかっています。床・壁に使用する材料を、お施主様が、ご家族で力を合わせ塗装します。大変な作業ですが、家族の思い出に残り、我が家にいっそう愛がこめられます。

株式会社ナガイ 島田市牛尾510-2 TEL (0547) 45-3501